

# 高女との課題研究合同発表会開催

## SSH部長岡田先生「多様な価値知ってほしい」



高女生の発表を聴く高女生たち



高女生の発表を聴く高女生たち

3月13日に、Gメッセ群馬で、高崎高校×高崎女子高校「課題研究合同発表会」が開催された。今回の発表会では、両者が対話を通して交流をすることで、自身の課題研究のレベルの向上を目指した。また、高高校は同日の午前中に「自分のものさしをつくらう」というテーマのもと、対話スキルの向上を図るために特別講演を受講した。

今回の課題研究合同発表会に参加した高崎高校（以下高女）と高崎女子高校（以下高女）の両校の生徒にインタビューを行なった。

高女生からは、「最初は、高女生と話すことに緊張して

いたが、会話をしていくうちに緊張が解けて質問が活発になった。高女生の発表は、男子にはない視点からの意見が多く、女性ならではの課題について知ることができた。両校の間でそれぞれの発表に特徴があることは興味深い」という男女の間の視座を指摘する声があがった。

また、高女生からは、「高女生は、チームの着眼点が良いと感じた。身近な疑問を解明する際に、根拠となる数字を明確にして発表していたため、分かりやすかった」という声も聞かれた。高女生からは、「高女生から、積極的に質問をしてもらい、考えを深めることができた。非常に有意義な時間だった。ぜひ来年も開催してほしい」という意見も聞かれた。

続けて、合同発表会の企画と運営を行なった、高女の探究部長の中村嘉宏先生と、高女のSSH部長である岡田直之先生にそれぞれ話を伺った。中村先生は、「高女生には、発表を通して男子高校生との物事に対する見方と、高女生の課題研究に対する根底にある姿勢を学んでほしい」と話していた。

また、「今回、他校へ向けて発表することで双方が発表の質を高め、より深い課題研究に繋がることを期待した。発表会を機に、今後研究を行なうために考えを共有し合える仲間が増えたならばうれしい」と語った。

岡田先生は、「まずは、生徒たちの反応を見てから検討をしていきたい。私自身は、可能であれば改善を重ねて、今後も開催できればと思っている」と胸の内を明かした。

岡田先生は合同発表会のいきさつについて、「一昨年の夏頃から、考え始めていた。その年の年末ごろに中村先生に話をし、その際にはできたらしいという結論に至った。その後、昨年の4月頃に、高女側の校長先生とお会いする機会があり、合同発表会について許可を頂くことができたため、開催を決定した」と説明した。

また、高女が午前に行なった特別講座に関して、「高女生は、物事を批判的に見る能力には優れている。しかし、

の作成を行なってきた。また、筆記試験の対策もしてきた。感想としては、皆それぞれ部活や塾もある中で、時間を見繕って練習をしたため大変ではあった。しかし、うまく気が飛んだ時は達成感を感じることも多く、よい経験であったと考える」と語った。

今後については、「科学の甲子園に関しては、3年生には参加資格がないので、自分たちは出場できないが、後輩には来年も県大会で優勝してほしい」と期待を述べた。

# 科学の甲子園5年ぶり全国

## SSH部

開催式での高女生の様子



第13回科学の甲子園全国大会が、令和6年3月15日から18日にかけて茨城県つくば市のつくば国際会議場、つくばカピオの2か所で開催された。高女が全国大会に出場するのは、5年ぶりとなる。高女からは、2年1組の木村怜くん、木本蒼大くん、黒澤駿くん、後藤明至くん、小見由仁くん、坂本聖くん、常見健太くん、山口凌生くんの計8人が

出場した。競技は筆記と実技に分かれている。筆記は数学、物理、化学、生物、地学、情報の6分野から、全6問が出題される。実技には、3つの種目がある。いずれも科学的な知識を駆使して、用意された材料を使いつつ、与えられた課題目標を達成するというものとなっている。

高女は健闘したが、惜しくも入賞を逃した。そこで、リーダーである小見くんに話を聞いた。今大会については、「筆記、実技課題ともに手強かった。

それでも高い成績を出す他県の学校を見て、全国大会のレベルの高さを肌で感じた。しかし、自分たちの力を全国大会の舞台で試すことができた。また、全国上位の人たちと交流し、視野を広げられたことが、大きな収穫であったと思う」と話した。

今大会に向けた取り組みに関しては、「実技試験は、3つの種目のうち、1つだけ事前に内容が明かされる。そのため2か月ほど、事前に明かされた実技種目の対策として、気球本体の試作・試験飛行と気球の高度シミュレーション

の質を高め、より深い課題研究に繋がることを期待した。発表会を機に、今後研究を行なうために考えを共有し合える仲間が増えたならばうれしい」と語った。

# かるたグランプリ

## 群馬県代表は4位

第19回全国高校生かるたグランプリ（以下、かるたグランプリ）が、3月9日と10日に東京都文京区の文京スポーツセンターで行なわれた。高女からは、富岡優月くん（2の7）が、群馬県代表の一員として出場した。

また、大会全体を通して、「連覇した東京都代表や、関西地方の強豪である大阪府代表からは気迫を感じた」と話した。

かるたグランプリは、都道府県ごとに選ばれたチームが小倉百人一首で争う大会だ。群馬県代表は、9日に行なわれた予選リーグを勝ち抜き、10日に行なわれた決勝リーグで4位入賞を果たした。

富岡くんは、「大会で経験を積み競技かるた四段を目指してこれからも練習に励んでいきたい」と意気込みを語った。

富岡くんは4位入賞という結果について聞くと、「もう少し上位を目指せたのではないかと悔しさを口にした。

また、大会全体を通して、「連覇した東京都代表や、関西地方の強豪である大阪府代表からは気迫を感じた」と話した。

(木村)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---